

戦争と宗教の世界史

鈴木 董 / 編
(東京大学名誉教授)



なぜ、宗教上では“禁忌”とされている殺人が、戦争では“肯定”されるのか

宗教には、殺すことへの禁忌、すなわち不殺生戒があるが、広狭様々であり、戦争についても、不戦・義戦・聖戦と様々である。

仏教 …… 人間すべてのみならず、生類すべてに対する不殺生戒があった。

キリスト教 …… 生類すべてではないが、人間については絶対的不殺生戒があり、不戦が原則。

ユダヤ教 …… 「まともな人間」についてのみ不殺生戒が及び、エホヴァの神とその信徒を害する者を討つことは聖戦であった。イスラームも同様である。

代表的諸宗教の各々の不殺生戒と戦争論について、各々を専門とする第一線の研究者がわかりやすく解説する。

収録内容 (予定)

序説 戦争と宗教 —不戦・義戦・聖戦—	鈴木 董
キリスト教の戦争論：聖書、神学、トルストイ、内村鑑三、ヴェーバー等	黒川知文
宗教戦争と民族紛争の本質構造：十字軍、30年戦争、パレスチナ紛争等	黒川知文
ウクライナ侵攻と正教会：ドストエフスキーとプーチンの戦争論	黒川知文
ユダヤ教における聖戦：理念と実践のはざま	志田雅宏
人間が戦うことをイスラームはどう考えるか	鎌田 繁
ゾロアスター教とマニ教の戦争イデオロギー	青木 健
ヒンドゥー教の古典—クシャトリア (戦士) の役割と救い	杉木恒彦
ジャイナ教の不殺生戒と戦争	上田真啓
初期仏教と上座部仏教	馬場紀寿
大乘経典から考える戦争と平和 —『涅槃経』『法華経』を手がかりに—	袁輪顕量

※朝日カルチャーセンターの人気講座を一冊の本にまとめました。

新刊受注メ
4 / 4 (木)

ご注文数

冊

※新刊配本に間に合いますよ、お早めのご注文をお願いします。

A5判 288頁(予定) ISBN:978-4-634-15247-2 C0022 予価 1,980円 (本体 1,800円)



2018年9月刊行 既刊(注文扱い)

文字と組織の世界史

新しい「比較文明史」のスケッチ

中国・インドが近未来の2大経済大国となりつつある今、世界は「西欧の世紀」から再び「アジアの世紀」を迎えるのか？この事態を読み解くための、新しい「文明史観」がここに登場！
諸文明を「文字世界」として可視化し、歴史上の巨大帝国を「支配組織」の比較優位で捉え直す、トインビー、マクニールを越える「比較文明史」の試み。

鈴木 董 著

ご注文数

冊



9784634150580

番線印

(ご担当名:)

A5判並製 392頁 ISBN978-4-634-15058-4 C0022 定価2,200円(本体2,000円+税)